

慰霊のことば

世界中で数千万人にも及ぶ尊い人命が失われた第二次世界大戦の終戦から、８１年の歳月が過ぎ去りました。

終戦の日に当たり、戦没者の御霊に謹んで哀悼の誠を捧げます。

先の大戦では、将来ある若者が最愛の家族の幸せ、祖国の安寧を願いながら犠牲となりました。私どもの郷土・鹿児島市も、大戦末期の昭和２０年、市街地の９割以上が焼失する激しい空襲を受け、多くの市民がお亡くなりになるという筆舌につくしがたい悲惨な体験をしました。

こうした想像を絶する戦禍の中、愛する家族や友人を失い、明日への希望さえ見出し難い深い悲しみや苦しみを抱えながらも、お互いに支え合い、幾多の艱難を乗り越えてこられたご遺族や関係の皆様方に深く敬意を表するものであります。

戦後、わが国は一貫して平和国家としての歩みを続け、目覚ましい経済発展を成し遂げました。本市におきましても、ご遺族をはじめ市民の皆様の英知と弛まぬご努力により見事に復興を果たし、世界に誇りうる自然・歴史・文化を礎に、多様な都市機能が集積し、活力を創出する中枢中核都市として着実な発展を続けています。

私たちが今、享受する平和や豊かさは、先人たちの尊い犠牲の上に築かれたものであることを決して忘れてはなりません。

一方、国際社会に目を向けますと、世界各地で戦争や紛争が続き、現在も多くの尊い命が失われています。また、中東地域をはじめとする各地の緊張の高まりは、国際社会の平和と安定のみならず、ホルムズ海峡を通じたエネルギー供給や世界経済にも大きな影響を及ぼしており、国際情勢は依然として予断を許さない状況です。

戦後８１年を迎えた今なお、世界から戦火が絶えることのない現実、平和の尊さとその脆さを改めて痛感するとともに、世界中の人々に一日も早く平穏な日々が訪れ、恒久平和が実現することを念願してやみません。

本市におきましては、昭和28年、大戦で亡くなられた世界中の方々を敵味方の区別なく悼むとともに、二度とこのような惨事が起こらないことを祈念するため、「第二次世界大戦敵味方戦亡者慰霊碑」を建立しました。

以来、8月15日に「第二次世界大戦戦亡者慰霊祭」、10月に「戦没者追悼式」を執り行い、戦没者の御霊の慰霊と平和への祈りを継承してまいりました。

そのような中、昨年、戦後80年の節目を迎えましたが、戦後生まれの世代が人口の9割を占め、戦争の記憶が風化していくことが強く懸念されたことから、“次世代への継承を主眼に持続可能なもの”としていくため、両式典を統合し、新たに「戦没者追悼・平和祈念式」として10月に開催することとしたところです。

新たな式典では、ご遺族はもとより、多くの未来を担う子供たちに参列いただき、戦争の悲惨さや平和の尊さを次の世代にしっかりと語り継いでまいります。

そして今後とも、世界中の人々が多様性や価値観の違いを認め合い、手を携えて恒久平和が達成されるよう、不断の努力を続けていくことをここに固くお誓い申し上げます。

結びに、戦没者の御霊のご冥福と、ご遺族の皆様方のご健勝ご多幸、郷土の限りない発展を祈念して、慰霊のことばといたします。

令和8年8月15日

鹿児島市長

下鶴 隆央